

経済学部専門教育科目

経済原論②

経済学部准教授 玉田 康成
経済学部助教 八尾 政行

我々が直面している「経済」という現象に対し、経済学の役割として実践的にその問題を解決するということが求められている。一方で、経済学には問題が発生する原因やその解決法を理論的に分析することも必要とされている。本講義は現代の経済学の理論研究について、その入門的内容を解説することを目的としている。現代の経済学は経済の構成員の視点を基にしたミクロ経済学、経済全体を俯瞰する視点を基にしたマクロ経済学に大別される。ミクロ経済学、マクロ経済学は相補関係にあり、両方をよく理解することが重要である。第1回は総論的な、経済学全体についての概観を講義する。第2回から第8回まででミクロ経済学について触れる。うち第5回までは市場の理論についてであり、最も基礎的な理論となる。第6回から先は市場の失敗と呼ばれる話や、ゲームの理論に関連したトピックを扱う。第9回から第11回まではマクロ経済学のトピックである。これらを通して学べば、現代の経済学について、特に学問的に経済を分析しようとしている者が持っているべき知識の大部分を吸収することができるものと考えられる。

〔第1回〕 総論：経済理論とはなにか

〔第2回〕 ミクロ経済学：消費者理論（1）効用関数と需要関数

〔第3回〕 ミクロ経済学：消費者理論（2）基数・序数効用とスルツキー分解

〔第4回〕 ミクロ経済学：生産者理論

〔第5回〕 ミクロ経済学：均衡

〔第6回〕 ミクロ経済学：市場の失敗、独占

〔第7回〕 ミクロ経済学：ゲームの理論（1）ナッシュ均衡とその応用

〔第8回〕 ミクロ経済学：ゲームの理論（2）均衡概念の精緻化

〔第9回〕 マクロ経済学：IS-LM

〔第10回〕 マクロ経済学：AD-ASと期待形成

〔第11回〕 マクロ経済学：長期的な経済発展

〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：福岡正夫『ゼミナール 経済学入門〔第4版〕』（日本経済新聞出版社、2008年）
ISBN 978-4-532-13361-0

受講上の要望または受講上の前提条件

特に前提となる知識はない。ただし、微分についての知識があると授業をより深く理解することができる。

成績評価方法

最終日の試験によって行う。

計量経済学②

講師 溝下 雅子

計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には、経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検討するという作業をおこなう。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の問題があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義ではこのようなことを念頭におきながら、古典的回帰モデルを中心に一般に行われている実証分析の手法を、なるべく平易に解説していきたい。講義は概ね以下の内容を取り上げる予定であるが、履修者の状況によって適宜修正する。

〔第1回〕 計量経済学とは（I）：実験計画と資料の収集

〔第2回〕 計量経済学とは（II）：計量経済学の

歴史的な流れ、消費関数論争

- [第3回] 最小2乗法 (I) : 線形関係の推定
- [第4回] 最小2乗法 (II) : 最小2乗推定値、決定係数
- [第5回] 単純回帰分析 (I) : 単純回帰モデル
- [第6回] 単純回帰分析 (II) : 推定量 α と β の期待値と分散、最良線型不偏性と一貫性
- [第7回] 単純回帰分析 (III) : t 検定
- [第8回] 多重回帰分析 (I) : 多重回帰モデル、多重共線性
- [第9回] 多重回帰分析 (II) : 自由度修正済み決定係数、変数の過不足
- [第10回] モデルの関数型と特殊な変数 : 対数変換、ダミー変数
- [第11回] 標準的仮定が満たされない場合 (I) 系列相関、不均一分散
- [第12回] 標準的仮定が満たされない場合 (II) 説明変数と攪乱項の相関

テキスト : プリントを適宜配布する。

- 参考文献 : 山本拓『計量経済学』(新世社、1995年)
ISBN 978-4-915787-45-4
秋山裕『Rによる計量経済学』(オーム社、2009年)(市販書採用科目「計量経済学」テキスト)
ISBN 978-4-274-06748-8
小尾恵一郎『計量経済学入門—実証分析の基礎』(日本評論社、1972年)
ISBN 978-4-535-02810-4

受講上の要望または受講上の前提条件

1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
2. 統計学を履修済みである方が望ましい。
3. 経済事象に関する疑問や仮説を具体的にもって講義に臨むと、内容を理解しやすいと思われる。
4. 毎回の講義と期末試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付きの電卓や関数電卓の使用は不可。

成績評価方法

出席状況および最終日の試験の結果による評価。

社会思想史②

講師 鈴木 平

社会思想史は、今とは異なる社会の、私たちが共有していない価値観を含む思想の歴史です。その領域から現代の私たちの思考へ、すぐに適用できるものを見いだすことは容易ではありません。しかし、異なった考えを、既存概念や自分の先入観を通さずに学ぶことで、私たちはそれまで信じてきた判断基準や世界観を客観的に見ることができるようになります。ときには反省や転向を余儀なくされるかもしれませんが、そのような経験を積み重ねるうちに、やがて自分や社会が直面する問題について、公平な立場から熟考するための素地を自らの内に育むことができるようになるでしょう。このことは、思想の歴史から私たちが学ぶことができるもっとも大切な意義のひとつではないでしょうか。

この講義では近代の西洋思想のあゆみをたどります。また、その担い手たちが近代の日本の思想的発展に与えたインパクトについても考察します。

- [第1回] 社会思想とはなにか
- [第2回~第3回] 封建社会と人間解放
- [第4回~第5回] 市民社会と近代思想の形成
- [第6回~第7回] 階級対立と近代思想の展開
- [第8回~第9回] 帝国主義と社会主義
- [第10回] 日本の近代化と社会思想
- [第11回] 現代社会思想の課題
- [第12回] 総括

テキスト : プリントを適宜配布する。

- 参考文献 : 井上琢智他編『古典から読み解く経済思想史』(ミネルヴァ書房、2012年)
ISBN 978-4623063178
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史—視座と論点』(岩波書店、2012年)
ISBN 978-4000289078
水田洋『新稿 社会思想小史』(ミネルヴァ書房、2006年)
ISBN 978-4623043460
山脇直司『社会思想史を学ぶ』(ちくま新書、2009年)
ISBN 978-4480065261
ロバート・L・ハイルブローナー『入門 経済思想史 世俗の思想家たち

〔第5版〕(ちくま学芸文庫、2005年)

ISBN 978-4480086655

受講上の要望または受講上の前提条件

社会思想史に関心のある方ならどなたでも歓迎します。

成績評価方法

授業への出席状況(補講を含む)と試験(持ち込み可)の結果をあわせて総合的に評価します。

専門外国書講読(英書)② 講師 篠原 洋治

政治思想、社会思想の分野で長く注目されて来たハンナ・アレントの著作を読みます。ナチズムやスターリニズムの心理的基盤を分析した『全体主義の起源』(1951年)の後に書かれた『人間の条件』(1958年)を読みます。公共性とはなにか、労働とはなにか、社会とはなにかという現代社会の最も重要な問題に、古代ギリシア思想に立ち返り光を当てた著作です。

授業は訳読のかたちで進め、内容を検討、解説していきます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 人間—社会的または政治的動物 ①

〔第3回〕 人間—社会的または政治的動物 ②

〔第4回〕 ポリスと家族 ①

〔第5回〕 ポリスと家族 ②

〔第6回〕 社会的なるものの勃興 ①

〔第7回〕 社会的なるものの勃興 ②

〔第8回〕 公的領域—共通なるもの ①

〔第9回〕 公的領域—共通なるもの ②

〔第10回〕 私的領域—財産 ①

〔第11回〕 私的領域—財産 ②

〔第12回〕 総括

テキスト：初回の授業でコピーを配布。

参考文献：必要に応じて授業で指示します。

受講上の要望または受講上の前提条件

テキストの予習を必ずして来てください。

成績評価方法

出席ならびに担当箇所の翻訳などの平常点で評価します。

西洋経済史② 講師 鈴木楠緒子

ヒト、モノ、カネが国境を越えて世界中を駆け

巡る現代、私達の生活はもはや一国のみでは成り立たなくなっている。そこで、この講義では、近年盛んになっている「グローバル・ヒストリー」と呼ばれる諸研究を参照しながら、このような仕組みが生まれてきた背景を学ぶとともに、一体化する世界の歴史と一国の歴史の間の相互作用について、ドイツの近代史を例に、考えていく。その際、ドイツへのアジアからの影響(イースタン・インパクト)に注目することとする。

〔第1回〕 ガイダンス 「グローバル・ヒストリー」とは？

〔第2回〕 ヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化～世界システム論からみる～

〔第3回〕 大航海時代以降の東西交渉史の中のドイツ

〔第4回〕 転機としてのフランス革命とナポレオン戦争

〔第5回〕 アヘン戦争(1840～1842)とドイツ

〔第6回〕 1848年革命とドイツ統一問題

〔第7回〕 1850年代のオーストリア政府とプロイセン政府による関税政策論争と海外貿易

〔第8回〕 ベリーの日本遠征、太平天国、アロー戦争、インドの大反乱とドイツ

〔第9回〕 国交樹立以前のドイツの東アジア貿易～ハンザ都市の場合を中心に～

〔第10回〕 オイレンブルク使節団(プロイセンの東アジア遠征隊)の波紋

〔第11回〕 海外在住者の管理・管轄問題と統一ドイツ国家

〔第12回〕 試験および総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：木村靖二編『ドイツの歴史：新ヨーロッパ中心国の軌跡』(有斐閣、2000年) ISBN 4-641-12084-6

鈴木楠緒子『ドイツ帝国の成立と東アジア：遅れてきたプロイセンによる「開国」』(ミネルヴァ書房、2012年)

ISBN 978-4-623-06393-2

水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』(山川出版社、2008年)

ISBN 978-4-634-64034-4

三谷博・並木頼寿・月脚達彦編『大人のための近現代史』（東京大学出版会、2009年）

ISBN 978-4-13-023058-2

受講上の要望または受講上の前提条件

講義期間中に講義時の資料などを配付することがあるので、塾内ネットワークアカウント取得を前提とする。

成績評価方法

最終日の試験による。

社会政策②

講師 齋藤 香里

現代の社会政策は、労働問題と社会福祉によって構成される。

本講義では、日本の社会福祉のあり方について「格差」という視点から検討する。

医療保険制度、子育て支援や子どもの貧困など子どもに対する政策、および介護保険制度といった社会保障制度の概要と政策課題などを取り上げる。

〔第1回〕 イントロダクション—社会政策とは何か、社会政策の理論と歴史的展開—

〔第2回〕 医療保険制度①

〔第3回〕 医療保険制度②

〔第4回〕 子育て支援政策

子どもの貧困①

〔第5回〕 子どもの貧困②

〔第6回〕 子どもの貧困③

〔第7回〕 子どもの貧困④

〔第8回〕 子どもの貧困⑤

〔第9回〕 介護保険制度①

〔第10回〕 介護保険制度②

〔第11回〕 介護保険制度③

〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策」テキスト）

ISBN 978-4-7944-3121-9

受講上の要望または受講上の前提条件

経済学の知識がある方が理解しやすいが、特別な知識や経済学の事前履修を前提とはしない。

成績評価方法を

最終日に行う試験の結果により評価。

社会福祉論②

講師 永井 政治

社会福祉制度は、特定の人のみを対象としたものではなく、すべての国民を対象としている。そのため、私達が安心した生活を営む為には必要不可欠な制度である。しかし、日本の社会福祉を取り巻く環境は、超高齢化社会を前にして様々な制度改革が断行されている。それは、従来型の制度体系では人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等の問題に十分な対応を施す事が困難になったからである。

このような実態を踏まえ、本講義では社会福祉を経済学的な視点で考察し、どのような社会福祉制度が近年の動向であるかを考える。その際、我が国の社会福祉の諸制度（特に年金・医療・労働保険・生活保護等）を理解することに重点を置いたうえで、社会福祉の意味、歴史等を合わせて理解することを講義の目的とする。

〔第1回〕 ガイダンス・成熟化社会における社会保障

〔第2回〕 少子・高齢化社会の現状と動向

〔第3回〕 高齢化と日本経済

〔第4回〕 社会保障制度の機能

〔第5回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①

〔第6回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②

〔第7回〕 国民年金制度の概要①

〔第8回〕 国民年金制度の概要②

〔第9回〕 健康保険制度の概要①

〔第10回〕 健康保険制度の概要②

〔第11回〕 労働者災害補償保険制度の概要

〔第12回〕 総括

テキスト：駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策」テキスト）

その他、プリントを適宜配布する予定である。

参考文献：授業中に適宜指示する。

受講上の要望または受講上の前提条件

我が国の社会福祉及び社会保障の仕組みについて関心を持つ塾生を歓迎する。なお、スクーリン

グ期間中の学習等は、担当教員の指示に従っていただく（授業の初回に説明する）。

成績評価方法

①「試験」を前提とし、②「その他（提出課題等）」、③「授業態度」を考慮して、総合的に評価する（受講数により判断するため、詳細は初回の授業で説明する）。

経済政策②

講師 野口 尚洋

新聞やテレビのニュースで、政府による経済政策は様々な形で報道されている。年金などの社会保障政策や雇用の創出などのマクロ経済政策などは多くの人にとっての関心事項であろう。特に、将来に対する不確実さや国際化の波による伝統的な日本の経済構造の崩壊に直面している今、政府による経済政策の重要性は日増しに高まっている。本講義では、経済学の中で経済政策を理解することにより経済理論に裏打ちされた目でこれら政策について自分なりに理解出来るようになることを目標とする。具体的な講義内容は以下の通り。

- 〔第1回〕 ミクロ経済学の復習
- 〔第2回〕 市場への政府介入
- 〔第3回〕 公益事業と競争政策
- 〔第4回〕 外部性と公共財
- 〔第5回〕 ミクロ経済政策の復習
- 〔第6回〕 マクロ経済学の復習
- 〔第7回〕 安定化政策の基礎と財政金融政策
- 〔第8回〕 インフレ・デフレと失業
- 〔第9回〕 安定化政策の現代的課題
- 〔第10回〕 税制の効率性と公平性
- 〔第11回〕 現実のトピックス
- 〔第12回〕 総括

テキスト：岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール 経済政策入門』（日本経済新聞社、2006年）

参考文献：それぞれのトピックスについて授業で適宜紹介する。

受講上の要望または受講上の前提条件

ミクロ経済学、マクロ経済学の復習も講義の中で行う予定ですが、時間の関係上、それほど詳しく説明できないので、ミクロ経済学やマクロ経済学などの講義を履修しているか、または講義

までにある程度の知識を身につけていることを前提とする。

成績評価方法

最後の試験によって評価するが、数回は当日扱った内容に対するレポートを講義内に作成し提出していただき、それも評価の対象とする。

金融論②

講師 山上 秀文

グローバル化が進む現在の日本経済を理解し、その将来を展望するためには、金融の実際と理論を理解することが不可欠である。

この講義では、第1回から第7回まで資金の循環を中心に様々な角度より金融の実際を説明する。その上で第8回から第11回まではその実際の動きの背後にある金融の理論を学ぶ。

その中で、変化の激しい金融の働きを実際と理論の両面から理解してほしい。

- 〔第1回〕 資金循環と資金の過不足
- 〔第2回〕 企業の資金調達と投資
- 〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
- 〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
- 〔第5回〕 金融行政と金融政策
- 〔第6回〕 財政と財政投融资
- 〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替
- 〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
- 〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業と銀行の金融行動）
- 〔第10回〕 金融のマクロ理論（IS-LMモデル、IS-LM-BPモデル）
- 〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要-総供給モデル、期待形成）
- 〔第12回〕 総括

テキスト：吉野直行・山上秀文『新・金融論』（通信テキスト、2013年）

参考文献：山上秀文『東アジアの新しい金融・資本市場の構築』（日本評論社、2008年） ISBN 978-4-535-55517-4

財務省理財局『財政投融资リポート 2014』（2014年・近刊）

受講上の要望または受講上の前提条件

金融の理論的側面理解のためには、経済学の基礎を履修済であることが望ましいが、必須の前提

ではない。講義ではまず金融の実際を、必要に応じて経済学の基礎に立ち戻りながら説明し、その理解に基づいて金融の理論を学ぶ。なお、テキストに加えて、担当者自作の補助プリント教材も、あわせて使用する。

成績評価方法

最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

日本経済論② 経済学部教授 植田 浩史

日本経済について、戦前期から現在までを歴史的に勉強するとともに、現在の日本経済の特徴と抱えている問題を構造的に考察する。

- 〔第1回〕 オリエンテーション。第1章 戦前期の日本経済（1）開港から産業革命、第1次世界大戦
- 〔第2回〕 第1章 戦前期の日本経済（2）恐慌から戦時期
- 〔第3回〕 第2章 戦後の経済発展と高度成長（1）
- 〔第4回〕 第2章 戦後の経済発展と高度成長（2）
- 〔第5回〕 第2章 戦後の経済発展と高度成長（3）
第3章 安定成長期（1）
- 〔第6回〕 第3章 安定成長期（2）
- 〔第7回〕 第4章 バブル経済とその崩壊（1）
- 〔第8回〕 第4章 バブル経済とその崩壊（2）
- 〔第9回〕 第5章 失われた10年
- 〔第10回〕 第6章 21世紀資本主義と日本経済（1）
- 〔第11回〕 第6章 21世紀資本主義と日本経済（2）
- 〔第12回〕 第6章 21世紀資本主義と日本経済（3）

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：宮崎勇他『日本経済図説〔第4版〕』（岩波書店、2013年）

ISBN 978-4-00-431447-9

受講上の要望または受講上の前提条件

授業に際しては、歴史と現状について日本経済に関するある程度の幅広い知識が必要になってき

ます。ある程度の予習と復習をしっかりとされることを期待します。

成績評価方法

3回程度のレポートを宿題として課す予定です。宿題の提出状況と最終試験の結果によって、総合的に判断し、成績評価をします。

国際経済学② 講師 久野 新

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化の是非をめぐる国内でも意見が衝突するのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 部分均衡分析の方法論（復習）
3. 貿易政策の基礎
4. 貿易政策の応用
5. 比較優位と分業の利益(1)
6. 比較優位と分業の利益(2)
7. 国際貿易のルールと貿易交渉(1)
8. 国際貿易のルールと貿易交渉(2)
9. 地域貿易協定(1)
10. 地域貿易協定(2)
11. 国際要素移動（資本や労働の国際移動）
12. 総括

テキスト：石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）

受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論を履修済みであることが望ましい。

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

成績評価方法

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

世界経済論②

講師 久野 新

従来、東アジア各国は経済的な相互依存関係を緊密化させながら経済成長を遂げてきましたが、各国の発展の経緯、成長の成功要因、政治体制、直面している政策課題は必ずしも一様ではない。本講義では、いま世界の中で最もダイナミックに変化を遂げている東アジアの経済に焦点をあて、同地域における貿易・投資構造の変遷、および各国の経済発展の経緯や特性などについて学ぶ。

・学習の到達目標

地域として捉えた場合の東アジアの経済的特性、および個別東アジア各国における経済発展の経緯と特性、現在の政策課題に関する理解を深める。

講義内容は以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 地域としての東アジアの特性（1）
3. 地域としての東アジアの特性（2）
4. シンガポール
5. マレーシア
6. インドネシア
7. フィリピン
8. タイ
9. ベトナム
10. ミャンマー
11. 中国
12. 総括

テキスト：授業中にプリントを配布する

受講上の要望または受講上の前提条件

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

成績評価方法

最終日の試験のみで評価する。

産業関係論②

商学部教授 八代 充史

この講義では、産業関係論の様々な側面の中で特に人的資源管理について講義を行う。人的資源管理とは、市場経済で最大利潤獲得を目的にした企業が、どうしたら従業員を合理的に活用し、また彼らのやる気を高めることができるかを研究する学問である。ここでは、人的資源管理を①理論、②実態、③国際比較、の3つの側面から講ずることにしたい。

- 〔第1回〕 人的資源管理の諸概念（1）
- 〔第2回〕 人的資源管理の諸概念（2）
- 〔第3回〕 労働市場と人的資源管理
- 〔第4回〕 人的資源管理の組織—人事部門・人事制度
- 〔第5回〕 人的資源管理の諸領域—（1）募集・採用
- 〔第6回〕 人的資源管理の諸領域—（2）配置・異動
- 〔第7回〕 人的資源管理の諸領域—（3）昇進・昇格
- 〔第8回〕 人的資源管理の諸領域—（4）人事考課
- 〔第9回〕 人的資源管理の諸領域—（5）賃金
- 〔第10回〕 人的資源管理の国際比較（1）
- 〔第11回〕 人的資源管理の国際比較（2）
- 〔第12回〕 総括

テキスト：八代充史『人的資源管理論〔第2版〕』（中央経済社、2014年）

参考文献：八代充史・南雲智映『ライブ講義 はじめての人事管理』（泉文堂、2010年）

受講上の要望または受講上の前提条件

なるべく講義開始時間に着席しているようにして下さい。

成績評価方法

スクーリング期間の最終日に実施する試験によって、評価を行います。

法学概論②

法学部教授 霞 信彦

現代社会において日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実である。そこで本講義の目的は、日常生活の周辺に横たわる「法」への知見を広げ理解を深めることにある。そのために、われわれが新聞・書籍等を通じて身近に見聞する「法」に係わる諸問題をも必要に応じてとりあげつつ、それらに内包される法律学上の基礎的論点について述べてみたいと思う。特に、司法制度に関しては、今後の国民生活とも密接に関係することが多く、現状に至る必須の情報を提供するつもりである。

- 〔第1回〕 開講にあたって・法律学に関する基礎文献について
- 〔第2回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難

解法律用語

- 〔第3回〕 法令用語をめぐって・法律格言
- 〔第4回〕 法源(法の存在形式)―成文法と不文法
- 〔第5回〕 わが国における成文法
- 〔第6回〕 わが国における不文法
- 〔第7回〕 法の種類①
- 〔第8回〕 法の種類②
- 〔第9回〕 法の効力・法の解釈と適用
- 〔第10回〕 わが国における司法制度概論①
- 〔第11回〕 わが国における司法制度概論②
- 〔第12回〕 総括

テキスト：霞信彦『法学講義ノート〔第5版〕』（慶應義塾大学出版会、2013年）

ISBN 978-4-7664-2026-5

「六法」については、初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

参考文献：峯村光郎・田中実・霞信彦他『法学(憲法を含む)』（通信テキスト、2010年）

受講上の要望または受講上の前提条件

本講義は法律を専門とする学生に開講されたものではないが、受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。

成績評価方法

講義最終日に筆記試験を実施する。出題形式については、講義中に指示する。

総合講座「間(あわい)を考える」②

- 文学部准教授 近森 高明
- 文学部教授 井出 新
- 文学部教授 上枝 美典
- 文学部教授 梅田 聡
- 文学部教授 糸川麻里生
- 文学部教授 杉本 智俊
- 文学部教授 鈴木 淳子
- 文学部教授 鈴木 正崇
- 文学部教授 平野 昭
- 文学部准教授 井上 櫻子
- 文学部准教授 清水 明子
- 文学部准教授 山梨 あや

講義要綱は53ページを参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は、他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含められる科目です。

以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

哲学（専門）②	講 師 奥村 大介 講 師 金成 祐人	日本史特殊②	文学部教授 三宅 和朗
社会心理学（専門）②	講 師 村山 陽	西洋史特殊②	講 師 針谷 寛
図書館・情報学②	講 師 長谷川豊祐		

以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

憲 法②	講 師 岡田 順太	マス・コミュニケーション論②	講 師 山口 仁
民 法②	法学部准教授 前田美千代 講 師 阿部 史	政治思想論②	講 師 原田健二郎
刑 法②	講 師 野村 和彦	国際政治論②	講 師 手賀 裕輔
行政法②	講 師 仲田 孝仁	政治理論②	講 師 鷲田 任邦
法制史②	講 師 漆原 徹	政治過程論②	講 師 池田 豊彦
法制史特殊②	講 師 神野 潔	日本政治史②	講 師 小田 義幸
社会学特殊②	講 師 宣 元錫	日本政治論②	法学部教授 玉井 清